

中学校 3 年

八尾市の財政状況を考えよう！

八尾市立成法中学校

教科

社会

単元名

公民的分野「くらしを支える地方自治」

単元のねらい

【教科としての】ねらい

地方公共団体の政治のしくみ、住民の権利や義務を基に地方自治の基本的な考え方について、理解する。

【情報活用能力をはぐくむ】ねらい

目的に応じて学習者が必要な資料・情報にアクセスし、収集することができる。また収集した資料・情報を整理・分析しながら多面的・多角的に考察することを通して、自分自身の考えを持ち、その考えを根拠を示しながら表現できる力をはぐくむ。

本時で育む主な情報活用能力

B－STEP 4, C－STEP 4
D－STEP 4, E－STEP 4

該当番号の詳細内容は

「大阪府情報活用能力

ステップシート」から確認できます。



評価の基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地方公共団体の政治のしくみ、住民の権利や義務を基に地方自治の基本的な考え方について理解している。	対立と合意、公立と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、よりよい地域社会を作ること、住民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	くらしを支える地方自治について、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

単元における学習の展開（全 6 時間）

次	学習内容	主な評価規準【観点】と評価方法
第 1 次 (2 時間)	○よりよい地方自治を実現するためには、民主主義の考えに基づく地域住民の主体的な参加が必要であることを理解する。 ○地方公共団体の役割や地方自治のしくみについて理解する。	○よりよい地方自治を実現するためには、民主主義に基づく地域住民の主体的な参加が必要であることを理解している。【知・技】 ○地方公共団体の役割や地方自治のしくみについて理解している。【知・技】
第 2 次 本時 (1 時間)	○八尾市を例にして、財政状況を確認する。市の強みや課題について確認する。	○資料を活用して、市の財政状況について理解している。【知・技】 ○クラスメイトと協力して主体的に情報を集めようとしている。【主】
第 3 次 (1 時間)	○より良い八尾市を実現するための予算案を作成する。	○資料を活用し、効率、公正の観点に立ち、多様な視点からより良い八尾市の予算案を作成している。【思】 ○クラスメイトと協力して主体的に情報を集めようとして、意見交流を進める中でより良い案を出そうとしている。【主】
第 4 次 (2 時間)	○より良い八尾市を実現するための予算案を作成し、重点項目について説明する。また、発表内容を交流する。	○作成した予算案からより良い八尾市の在り方を構想し、論理的に説明できている。【思】 ○クラスメイトと協力して主体的に情報を集めようとして、意見交流を進めたりする中でより良い案を出そうとしている。【主】

本時のねらいと情報活用能力をはぐくむポイント

・本時のねらい

八尾市が発行している「わかりやすい財政公表」を参考にし、八尾市の財政状況について知る。そこからこれからの八尾市をより良くするためのアイデアを考え、交流する。この活動を通して、地方自治の基本的な考え方や、様々な世代、立場の人々のことを考え、効率、公正なアイデアを構想できるようにする。

・情報活用能力をはぐくむポイント

今回用意する資料は、「わかりやすい財政公表」、「令和 5 年財政状況資料集」、「八尾市の人口ピラミッド」、「八尾市の寄附実績」などである。これらの資料を活用し、適切な情報を抽出、自分の文章で表現できるようにしたい。また、自分の文章を作成するうえでクラスメイトの意見を参照したり、困っている部分を共有したり、ともに解決させようという協働的な学びにつながればと考えている。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ロイロノート（学習支援アプリ）

・配布資料（PDF ファイル）

「分かりやすい財政公表 令和 5 年度」（八尾市財政部財政課発行）、「令和 5 年財政状況資料集」、「八尾市の人口ピラミッド」
「八尾市の寄附実績」

本時の展開（第 3 時/全 6 時間）

学習の流れ	学習者の主な学習活動と内容	授業者の指導・助言のポイント・工夫
導入 (5 分)	○本時のめあてと「単元を貫く課題」との関連性を確認する。	・「単元を貫く課題」と「本時のめあて」を関連付け、往還させながら学習者に思考させることによって、社会科としての「見方・考え方」を深めさせる。
	単元を貫く課題「より良い八尾市をめざすために、私たちはどのように関わればよいだろう？」	
	本時のめあて「八尾市の財政はどのような状況になっているのだろうか？ 八尾市の重点課題は何だろう？」	
	○本時の自分目標を学習計画表に記入する。	
展開 (40 分)	○課題 「八尾市の強み、課題について必要な情報をまとめる。」 ・情報の整理・分析を行う ・疑問点、気になったこと → 課題の設定を行う ＜予想される学習者の姿＞ ①一人で黙々と情報収集、整理を行う。 ②クラスメイトと相談しながら情報収集、整理を行う。 ③授業者に積極的に質問しながら情報収集、整理を行う。	・【知識・技能】 資料を活用して、市の財政状況について理解している。 ・【情報の取り扱いに関して】 学習者がタブレット端末や学校図書館資料を活用し、調べ学習をおこなう際、情報元のサイトの信頼性を確かめたり、情報の引用元を明記するなど、情報の取り扱いに対する意識を高める助言をおこなう。 学習者の理解に応じて、着目すべき数値などを助言し、資料を読み取る力を高める助言をおこなう。
まとめ (5 分)	○本時の学習内容で特に重要だと思った事、自分の学習状況と学習手法が適切であったか、次回の授業で意識したいことを振り返り、学習計画表に記入する。	・【主体的に学習に取り組む態度】 地元である八尾市の財政状況などから八尾市の強みや課題について学習するなかで、自分自身で深く考えようとしていたり、必要な範囲でクラスメイトと協力したりするなど、積極的に学びを深めようとしている。…A

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

本単元では「地方自治」をテーマに、身近な地域である八尾市について考え、自分の意見をまとめる学習を行う。地方自治は、学習者にとって将来、身近に関わることの多い政治活動であり、社会の一員としての意識を育む重要な内容である。

単元のまとめとして第 3 次・第 4 次に「八尾市の予算案について考えよう」という授業を実施する。ここでは、Microsoft Excel を活用し、グラフなどの視覚的な資料を用いて、分かりやすく具体的に予算案を表現する。学習者の身近なテーマとデジタルツールを組み合わせることで、生徒が主体的に課題に取り組み、社会参画の力を育成したいと考えている。

また、Excel のグラフ作成に興味を持つ生徒がいれば、授業外で作成方法を支援し、情報活用能力の向上につなげていく予定である。

【「単元を貫く問い」と「本時のめあて」が往還する授業デザイン】

単元を貫く問いを設定し、本時の課題と単元を貫く課題の関連性を問い続ける授業をデザインしている。学習者は学習計画を立てるとき「本時のめあて」と「単元を貫く問い」がどのようにつながるのか、振り返りのときには、どうつながっていたのかを思考することとなる。探究的な学びへの一歩として、学習者自身の考えた課題をもとに、調べ学習をおこなっていく際、本時の学びと単元全体の学びが往還することによって、学習者は逸れることなく教科としての「見方・考え方」を深めることができると考える。

【協働から見える多面的・多角的な分析の視点】

本時では授業者から提示された資料をもとに、情報の整理・分析をおこなっていく。しかし、学習者によって資料を分析する視点や、分析の結果から導き出した自身の意見はさまざまである。自身の考えなかった視点や尊重すべき他者の意見に気づくことにより、学習者の分析の視野は広がる。学びスキルC 情報の整理・分析に関して協働的な学びを実現することによって、多面的・多角的な見方をはぐむことができる。

【情報機器活用能力の価値共有】

本単元では、Microsoft Excel を用いたグラフ作成やロイロノートでアイデアカードを整理するなど、自身の考えを視覚化することによって、さらに考えを深めたり、他者に自身の考えを伝えたりするときに有用であることに気づく。情報機器を活用することによる価値を学習者と共有することによって、今後の情報機器活用能力の発展につなげる。